



# かさおか



『もういいかい 火を消すまでは まあだだよ』

## 秋の全国火災予防運動

11月9日(土)から11月15日(金)まで



笠岡地区消防本部提供

これから寒くなるに従って暖房器具を使う機会も増え火災が起こりやすくなります。日頃から火の用心に心がけ、大切な命や貴重な財産を火災から守りましょう。

「全国火災予防運動」の名称が使用されるようになったのは1953年からで、1952年までは「全国大火撲滅運動」と呼ばれていました。

そして、春季は毎年3月1日～3月7日。秋季は毎年11月9日～11月15日とし、それぞれ春の全国火災予防運動、秋の全国火災予防運動を消防署と関係機関が連携して実施しています。

(ウィキペディア百科事典より)



10月11日・12日は恒例の笠神社例大祭、今年も祭り一色となり、元気いっぱいの子供みこしや勇壮な大人のみこしが町内を練り歩きました。近年は少子化の影響もあって子どもみこしも少なくなりましたが、平成12年頃には18地区からみこしやお船が約20台出していた記録がありました。

## 笠神社秋祭り



9月28日に笠岡町の歴史を知る会の会員が、笠岡遊覧恋浮雲に登場する勸善寺から北八幡宮までのコースを巡り、裏面の特集号ができました。笠岡の隠れた史跡を知っていただき、次回の研修会には皆様も是非ご参加ください。

文化部長



次号のかさおか自慢子ども新聞のテーマは「大仙院」と「おかげいち」です。11月1日に商店街や大仙院でインタビュー、そして11月16日は「大仙院縁日」と「いちよう祭り」が重なるので絶好の取材日となります。3月上旬の発行予定です。

文化部 子ども新聞部



- 11月1日(土) 9:30～  
第6回子ども新聞部の活動日です。
- 11月19日(水) 14:00～  
第14回役員会を開催予定です。
- 11月19日(水) 18:30～  
第17回子育て部会を開催予定です。

## 『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所: 笠岡市笠岡2627番地

電話: 63-5949

Fax: 75-0101

E-mail: zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日: 月・水・金曜日の

14時～17時まで

隠れた史跡 かさおか

【こんなところにもこんなものが】

笠岡遊覧恋浮雲をたよりに、九月二十八日朝、まち協の事務所を出た。江戸の街並みが平成の時代にどこまで残っているのか不安な散策である。

◆むかしの荷揚げ場

事務所の裏に白壁の蔵がある。礎石の部分は江戸時代のままのもので頑丈な石積みである。満潮を利用して帆船を横付けにし米俵の積み下ろしをしていたのだろう。赤銅色に日焼けした肌をむきだしにして荷



米蔵と船寄せ

下ろしをしている沖仲仕の力強い掛け声が、いまにも聞こえてきそうである。

◆勧善寺の六十六部

トンネルの手前十メートル程にある細い路地を北に入ると、いまは廃寺となり跡形もないが、かつて寺が所有していたと思われる墓地がある。入り口正面に三メートルを越える石柱が二本たつている。一本は正面に南無阿弥陀仏と名号が彫ってあり、他の一本は六十六部の供養塔である。建てた人は笠岡村 行者 良天である。

室町時代の後期、廻国巡礼の習俗があった。いまでいうお遍路さんである。日本各地六十六カ国の一宮に「法華経」を奉納するとおかげがあるという信仰である。満願成就したあかつきには、供養塔を建てた。多くは生まれ故郷に帰って建てているが、最終地で建てた人もいた。

◆井戸公園の天満宮



天満宮本殿

菅原道真を祀る神社（一五六〇）である。一般には、学問の神、文学の神、書道の神、詩文の神と崇敬されるが、笠岡では、むかしから渡航安全の神ともいわれられてあがめられている。港町であったからかもしれない。井戸公園への坂をあがると社殿が見える。社殿の裏にまわると菅原道真公を祀った本殿がある。窓格子の切り方や窓枠の形は、神殿というよりも銀閣寺の庫裏をにわせる不思議な建物である。

◆古い禅寺 威徳寺

昭和二十年代まで人々は、参道を「県庁道」とよんでいた。足利幕府に仕えた中世の勇将陶山義高の開基とも伝えられているが定かではない。笠置山落城の時弥勒菩薩をたずさえてお詣りしたことは、現存していることから確かである。陶山氏の居城である笠岡山城（一二九四）は、竜王山中腹から山裾にかけて北の八幡社あたりまでを城郭とし、隅田川を内堀のかわりにめぐらせたと伝えられている。



笠岡山威徳寺山門

の下はまだ海で船の出入りに使われていたことであらう。



笠岡山城古墓苑

竜王山の山麓に離散していた往時をしのぼせる数十基の五輪塔は、現在「笠岡山城古墓苑」として寺の境内に安置し供養されている。

◆保育園のある 玄忠寺

知恩院の末寺で阿弥陀如来を本尊とする浄土宗の寺である。金箔に被われた目を見張る絢爛たる



阿弥陀三尊坐像

仏像である。向かって左に勢至菩薩、右に観音菩薩、中央阿弥陀如来の光背には十三仏と共に多くの化仏が配置されている。三尊とも光背を持つて装飾された三尊も珍しい。

◆常夜灯は見ていた！ 北の八幡社から

丸山家より寄進された弘法大師作の「大黒天」が本堂内陣左手の脇壇に安置されている。暗闇で肉眼では見ることはできない。眼光するとく人の悪を見抜く射るような恐ろしい目である。



大黒天



旧笠岡町眺望

荒削りの長い石段を登りきると、右手に尾道の豪商亀山士綱寄進の五メートルは超える巨大な常夜灯がある。神島瀬戸からも灯が見えたことだろう。中央奥にかすかに白く見えるのが神島大橋のかかる瀬戸の海である。